

歴史地理学事典

歴史地理学会 編

A5判・640頁 予価 26,400円(本体 24,000円+税10%) ※価格は変更になる場合がございます。
ISBN978-4-621-31192-9

最新情報・詳細は
こちらから
丸善出版ホームページへ



空間と時間から歴史の中の地理を見出す

歴史地理学(historical geography)は、空間を軸とする地理学と、時間を軸とする歴史学という対立関係を越えて、時間・空間を同格に併存させて取り扱う研究分野であり、近年では産業、生業、災害史などへも広がりを見せている。日本の歴史地理学における現在の研究テーマ約 200 を解説し、歴史地理学を展望する。

関連書籍



地理学事典

日本地理学会 編

A5判・844頁
定価 26,400円
(本体 24,000円+税10%)
ISBN978-4-621-30793-9

総合の科学とも文理融合の科学とも称される地理学。本書では基礎的事項、自然領域(自然地理学)、人文領域(人文地理学)、応用面に分け解説。



日本文化事典

神崎 宣武・白幡 洋三郎・井上 章一 編

A5判・814頁
定価 22,000円
(本体 20,000円+税10%)
ISBN 978-4-621-08979-8

日本の様々な文化について正確に相手に伝えるために必要かつ十分なレベルの知識を図版を交えて解説。ワンテーマが見開き2ページ完結で、どこからでも興味深く読める。



経済地理学事典

経済地理学会 編

A5判・684頁
定価 26,400円
(本体 24,000円+税10%)
ISBN978-4-621-31016-8

多様な視点から産業・地域の分析を行い、現代社会の産業構造変化、地域問題、地域政策、環境問題、国際化などのテーマについて研究の先端と理論的課題を広く取り上げる。



現代地政学事典

『現代地政学事典』編集委員会 編

A5判・888頁
定価 26,400円
(本体 24,000円+税10%)
ISBN 978-4-621-30463-1

私たちを取り巻くさまざまな脅威や不安に関する認識、その構図、伝統地政学、批判地政学、ボーダースタディーズ、さらに地球社会が抱えるさまざまな脅威と解決の模索で構成。

丸善出版株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-17 神田神保町ビル 営業部 TEL(03)3512-3256
FAX(048)852-5591(受注センター) <https://www.maruzen-publishing.co.jp>

注文書	2025 年 11 月 刊 行 予 定		ご注文はお近くの書店まで	
	歴史地理学事典		予価 26,400円(本体 24,000円+税10%) ISBN978-4-621-31192-9	冊
	お名前		冊	
	ご住所 〒			
	TEL			

※ご注文をいただいた個人情報は、書店、取次(流通)・弊社間で商品手配の目的に利用させていただきます。

取扱店

tkp.Hb



歴史地理学事典

歴史地理学会 編

A5判・640頁
予価 26,400円(本体 24,000円+税10%)
※価格は変更になる場合がございます。
ISBN978-4-621-31192-9

編集委員長
小野寺 淳 茨城大学名誉教授

編集委員
青木 隆浩 国立歴史民俗博物館准教授
天野 宏司 駿河台大学スポーツ科学部教授
伊藤 徹哉 立正大学地球環境科学部教授
井村 博宣 日本大学文学部教授
上杉 和央 京都府立大学文学部教授
小野 映介 駒澤大学文学部教授
塚本 章宏 佛教大学歴史学部教授
山近 久美子 防衛大学校人文社会科学群教授
山村 亜希 京都大学大学院人間・環境学研究科教授
渡辺 理絵 山形大学農学部准教授

空間と時間から
歴史の中の
地理を見出す



丸善出版

◆電子書籍のお求めはこちら





※電子版発売、および販売ストア等は変更になる場合がございます。

目次

道網の形成／郵　便／行　商／定期市と在方市

8章:宗教・文化

宗教と旅／聖なる地の認識ーヨーロッパ／聖なる地の認識ー東アジア／聖なる地の認識ー伊勢神宮の古代・中世・近世／儀礼の地域性／都市の中の祭礼ー古代・中世,京都など／都市の中の祭礼ー城下町,江戸／近代における祭礼・うた・踊り／山岳宗教と信仰圏・景観／山岳宗教と地域／墓地と祭祀／琉球の風水／キリスト教の布教／観光化する民話・妖怪

9章:観光・旅行

近代期の旅行案内書／「などころ」から「めいしょ」へ／描かれた名所／近代の温泉・湯治・療養／地理と古典を生かした京都の旅／修学旅行

10章:歴史遺産

文化的景観と歴史地理学／戦争の記憶と景観変化／博物館の中の地理表象／地名の形成とその地域差／ロヒンギヤをめぐる問題の歴史的基礎／台湾における歴史的文化景観／中国における歴史的文化景観／韓国における歴史的文化景観／フランスにおける歴史的文化景観／ドイツにおける歴史的文化景観／イギリスにおける歴史的文化景観の管理／デンマークにおける都市景観保全／スペインにおける都市景観保全／インドにおける歴史的文化景観の管理／カナダにおける文化遺産の活用／オーストリアにおけるエスニック資源の活用／オーストラリアにおける文化景観

11章:人口移動・植民地

17～19世紀の日本における人口／日本での移住地・植民地研究の展開／東アジアの国際関係／日本町／戦前期の満州での流通と交通／戦前期の日本人の海外移民／北海道の開拓村落／南洋進出とサトウキビ

12章:絵図・地図

班田図と古代荘園図／荘園絵図の読解／中世の日本図／地球儀／ヨーロッパの世界図／ユーラシアの世界図／近世幕府撰日本図／江戸幕府撰国絵図／城絵図／伊能図の種類と地図仕立て／国レベルの測量図／村レベルの測量図／村絵図／河川図・航路図／北方図／琉球の針図／シーボルト／近世刊行世界図／近世刊行日本図／近世刊行都市図／近世道中図／時時表現としての鳥瞰図／近世災害図／戦時改描図／籍図／植民地図／行政地図／観光名所図

13章:歴史GIS

歴史GISの動向／近世古文書資料とGIS／古地図のGIS分析／近代統計資料とGIS／近代地図とGIS:土地利用変遷の分析とデジタルアーカイブ化／古地図のデジタルアーカイブ／古地図オンラインポータルサイト／歴史災害とGIS／古代・遺跡のGIS／名所案内記・町鑑とGIS／地理教育とデジタル・ミュージアム

14章:地理教育への活用

地理教育への活用／大学での歴史地理学／理教育への活用／郷土教育と教材開発／地理教育への活用／地理教育への地図の活用／地理教育への活用／地理教育への活用:高校での実践／地理教育への活用／地理教育への活用:中学での実践

1章:学史と方法論の系譜

地誌編纂／地域意識／江戸時代の歴史地理研究／吉田東伍／昭和戦後期の歴史地理学／景観変遷史法・景観史／環境考古学／景観復原の方法論ー中世・近世・近代の集落／日本の地帯構造と文化的差異／エスニック集団と歴史地理学／移民と植民／地政学と歴史地理学／東アジアと日本の風水について／古代・中世の地域区分／行政区分の変遷

2章:自然環境・気候・災害史

気候変動・気候環境・古気候／気候変動と人類史／古環境と歴史災害／風水害と減災・防災／平安京の火災ー平安・鎌倉時代のデータから／津波災害／地震災害／歴史時代の気候災害／火山災害／自然災害の記憶と記録／河川の流路変遷と改修／平野の地形発達と人間の居住／マリアー近現代期の宮古島を中心に／「里潮」と「里海」の生態系／人類の空間的拡散と自然環境

3章:生業と産業

生業と景観変化の関わり／農業と生業形態の変化／農業と農書／山林利用と植生の関わり／狩猟採集における地域的な差異／商業的農業／茶園経営／捕　鯨／水産物の商品化と干鰯・鰯粕／海鳥ーアホウドリと太平洋進出／漁　業／漁場利用／窯　業／鉱山と金属産業／近代製鉄と炭鉱／伝統的な職の技術／民芸運動と産地の歴史地割／在来工業／織　物／商業・金融／酒造業

4章:食の歴史地理

近代の食文化の変化／野菜食／雑穀の利用／伝統食の地域差／棚田の形成／米の在来品種と品種改良／在来家畜と食／海魚の漁と食／川魚の採取と食／柑橘類の食／保存食

5章:都市と村落

古代の集落と都市／都市遺跡と衛星写真／都城と条里／条里地割と集村／中世都市の形成／中近世移行期の都市再編／近世城下町の形成と変容／陣　屋／近世宿場町／近世村落と景観／近世村落と相給支配／アイヌの集落／倭　館／江戸の土地売買と抵当／中心地論からみた近代都市／近代小都市の形成と商業／首都東京の変遷／遊郭の成立と変遷／ヨーロッパでの近代都市の形成／北米での近代産業の発展／オーストラリアの都市の成立／ドイツにおける都市と農村／中国における都市と農村／台湾の都市空間の変容／朝鮮半島における都市と交通路

6章:開発・資源・利用

農村開発過程／荘園と地形環境／古代の開発／中世村落の開発過程／中世から近代までの森林利用変化／近世の新田開発・農業開発／近現代における日本の水田農業開発／油田開発と利用／山村と林業／海辺の利用／近代水道の発達／動力利用の変化と歴史地理／軍用地の転用／タウンシップの伝播と変容

7章:交通・流通・情報

古代の道／中世の道と湊／近世の道／近世の海運と河川交通／鉄

刊行にあたって（一部抜粋）

歴史地理学は古くて新しい学問です。豊臣秀吉は御前帳と郡絵図を天皇に献上したとされ、徳川家康は国絵図と郷帳の作成を西日本の大名に命じ、移封された大名は奈良時代の風土記などを手本とした地誌を支配のために編纂しました。やがて19世紀前半になると、(中略)民間の知識人によって様々なスケールの地誌や名所図会などが執筆、出版されました。のみならず、大坂や江戸の町が形成される以前の地形などを推測した考証図、長久保赤水編纂の日本図、観光案内図など、さまざまな地図が出版されました。西洋列強の来航を背景に、身分を問わず、当時の知識人たちの地域や世界の過去への関心が地誌や地図作製という学問的な営みへと向かわせたのではないのでしょうか。(中略)

地域の過去への関心は、喜田貞吉らによる「日本歴史地理研究会」(のちの日本歴史地理学会)の設立となり、特に地名の研究は吉田東伍編『大日本地名辞書』の名著を生みました。(中略)第二次世界大戦後は、歴史学の補完的な歴史地理学研究が衰退した一方で、地形環境を含む景観変遷史を中心に、環境考古学や古気候の研究など、地理学者による歴史地理学の研究が研究領域を広げながら盛んになります。こうした研究の動向のなか、1958年、現在の「歴史地理学会」の前身である「日本歴史地理学研究会」が発足しました。(中略)

本書の項目をご覧になると、かつて盛んであった研究が無くなった一方で、そのような研究も歴史地理学なのかと、驚かれたのではないのでしょうか。さらに、隣接科学との学問的交流が深まっています。最近メディアでも「土地に刻まれた歴史」への新たな関心が高まり、歴史地理学は単に地理学の一分野というだけではなく、メディアを通して、道の屈曲、坂道や土地の起伏、建物の様式、集落の風景、産業遺産などへ、多くの市民の関心が向けられています。

本書の出版の目的は、日本の歴史地理学の学問的達成度とその全体像を現時点で確認しておくことでした。それが、次の世紀への歴史地理学の進むべき学問的指針になると思うからです。このため、歴史地理学会の総力を挙げ、会員はもちろんのこと、隣接分野の研究者にも執筆をいただきました。

2025年10月
『歴史地理学事典』編集委員会を代表して
小野寺　　淳

